

会 議 録

1 会議名

令和3年度第4回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○諮問事項（公開）

(1)「上越市過疎地域持続的発展計画（案）」について

○協議事項（公開）

(1)自主的審議事項について

(2)令和3年度地区懇談会について

3 開催日時

令和3年8月10日（火）午後6時30分から午後20時20分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、小黒誠、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、横尾哲郎
- ・自治・地域振興課：廣川副課長、仙田主任
- ・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、隠田次長、飯田グループ長、藤井班長、田中主事（以下、グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【隠田次長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：折笠委員に依頼。
- ・本日の諮問事項である、(1)「上越市過疎地域持続的発展計画（案）」について、委員改選後初めての諮問事項であるため、事務局から諮問について説明いただき、その後今回の諮問事項の担当である自治・地域振興課より説明を求める。

【隠田次長】

- ・「諮問」と「答申」について説明させていただく。まず、市が地域協議会に諮問を行う目的は、市長が政策判断の参考とするために行っている。地域協議会は、諮問された事項を話し合い、その結果を市長に対して答申という形で返すこととなる。今回の諮問内容について、これから自治・地域振興課より説明させていただく。その後、委員の皆さんからご意見をいただき、次回の地域協議会で答申をいただきたいと思う。なお、答申にあたっては、諮問の内容について、住民の生活に「支障がある」、「支障はない」との判断をしていただくことになる。また、話し合いの中で、必要であれば、住民の生活に及ぼす影響を踏まえた意見を「附帯意見」として付け加えることができる。

【西山会長】

- ・続いて、自治・地域振興課より説明を求める。

【自治・地域振興課】

—資料1に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明があった内容について、意見や質問はないか。

【井上委員】

- ・冒頭で、諮問を行い答申を返すとのことだが、それぞれの地域協議会に諮問を行うということは、答申も同数あるということか。

【自治・地域振興課】

- ・そのとおりである。

【清水委員】

- ・取りまとめに関しては、事務方で行ったのか、もしくは委員会を組織する等、どのようなやり方で行われたのか。

【自治・地域振興課】

- ・事務方でまとめたものである。先程の説明でも少し触れたが、12月の市議会に上程することを予定している。その最大の理由が、国と県から示されたスケジュール案で、今年度の地方債の借入れを起す期限が12月とされている。国や県においては、それまでに議会で計画案を諮り、議決を経て借入れを起すよう指示が出ている。新潟県の過疎の方針については、現状、まだ案の段階で固まっていないが、示されたのが6月ということもあり、非常に短期間でまとめなければならない。加えて、来年度に第6次総合計画が終了し、第7次の計画をこれから作成していく。そこで新たにどういった事業を重点化していくか、市としてどのようなところに力を入れていくかが今後の大きな議論となる見込みである。そのため、現行においては既存の計画を基礎として一旦整理し、来年度以降、大規模な計画の修正がある時に必要な反映をしていく等、改めて計画を変えていくという前提の中で、必要な事項をまとめている。

【清水委員】

- ・意見として発言させていただく。先程の説明の中で、令和7年度の過疎地域の人口目標を3万6千人、現状維持とのことだが、認識としては非常に甘い。今牧区に住んでいる人間としては、農業が衰退して自分の代で終わらせる人がほとんどである。中には法人化したり個人で頑張る人もいるが、ごくわずかである。自分の代で終わらせるということは、過疎化が進むばかりで牧区に住んでいる人達がほとんどいなくなってしまう現状ではないかと考える。そのような面から、もっと対策を強化する必要がある。例えば、地域おこし協力隊の役割は非常に大きく、それを3年で自立させる現状については無理がある。そこをもっと強化していただきたい。また、子育て対策について過疎の地域は非常に弱い。優遇できるようなことを考えていかないと、子育て世代が牧区に残ることは難しい。その点を踏まえた計画でないと無理だと考える。

【自治・地域振興課】

- ・いただいた意見に関しては今後の施策に反映させていきたいと思う。今程、人口推計を目標のベースとすることに関して、少し考えが甘いのではないかとの意見をいただいた。現状、5年前の国勢調査の時点でも推計を行っているが、牧区を例に挙げると、当時見込んだ推計値よりも今回の国勢調査の速報値は、さらに72人下回っており、推計どおりにはいかないことが自ずと見えてくる。ただ、私どもとしては、まずは人口推計の水準までの回復は実現しなければならない。もちろん、推計水準を及第点とは思っていないが、達成すべき目標を整理しながら取り組んでいる。また、若い人に住んで働いていただくために、通年を通じて過疎地域で働き先を確保することは難しい。そこで、様々な仕事を組み合わせる中で通年の仕事を生み出し、若い方から働いてもらうという動きもある。国では、昨年度から地域の雇用をつなぎ合わせて一つの通年の仕事とし、生計を立てられるだけの収入を保証していくために、国も市も補助金を出す制度を立ち上げた。上越市内でもその制度を活用して形にしていこうと一生懸命取り組んでいる区もある。自治・地域振興課としても現地の総合事務所と関わる中で、できるだけ早く形となるように地域の方々と進めている。その中で、過疎地域で働く場や生活環境を維持する上で難しい部分がある中で、国や県、市としても少しでもこれらの制度や事業を活用しながら、地域のためにできるようなことをどんどん進めてまいりたい。計画に位置付けてできることもあれば、計画に位置付けることなくできることもあるので、すぐに着手できる内容であれば進めていきたい。

【横尾委員】

- ・話が前後するが、55ページ記載の「子育てジョイカード事業」について、先日の自主的審議事項検討業務に係る意見交換会でも話題となり、今後この内容をもっと充実させてほしいとの意見があった。若いお母さん方からの切実な意見なので、ぜひお願いしたい。

【自治・地域振興課】

- ・ご意見として伺わせていただき、所管している担当に伝えたいと思う。

【井上委員】

- ・先程の清水委員の意見と関係するが、基本目標が3万6千人という大きな目標に対して、幅をもたせて見ていかなければならないと思うし、その中で「何をどうするか」

という細部も考えていく必要がある。例えば、24ページの現状と問題点の中で本市の農業・農村について様々な方法等記載されているが、実際に今行われている農業とここに記載されている農業の改善の方向性が本当に合っているかどうか、考えながら基本目標を考えていく必要がある。もう一つは、48ページ前後に上下水道について記載されている。例えば、下水道の表において公共下水道について非常に重点的に記載されている。しかし、散在した山村においてその下水道を整備するのが良いのか、もしくは前述記載の合併処理浄化槽を個々の住宅に設置するのが良いのか、考えていかなければならない。大きな下水道を散在する住宅の中で整備することについて、予算的にどうなのか。上越市全体の財政状況にも関わると思う。そういったことを考えながら、この牧区なら牧区について、どのように維持・発展させていくかということも私たちも一緒に考えたいと思う。

【自治・地域振興課】

- ・現在把握している範囲で回答させていただく。下水道に関しては、非常に大きな整備が伴うものである。市街地であれば人口が集積しているため、公共下水道の整備効果も高い。しかし、そうでない地域については、農業集落排水あるいは浄化槽のような形で進める等して整理している。上越市では、以前から下水道を整備する区域を定めて進めていたが、今後の人口減少や高齢者世帯が多くなる中、下水道整備を行っても正直なところ効果が生まれにくいところもあると考える。それらを勘案し、整備区域の縮小や、借金に対する将来世代の返済、あるいは先々を見据えた時に必要となってくる財政事由を考慮すると、これから投資すべきものについては厳しい目で精査することが必要だと思う。もちろん、必要な投資はしていきたいが、後の将来の大きな負担になることや整備した施設がすぐ使われなくなってしまうことがないように注意していきたいと思う。
- ・目標の設定の考え方について、我々も理解をしているつもりであり、さらに注意を払わなければならないと思う。地域おこし協力隊に関しては、任期を終えた人数だけ定住することが想定できる。しかし、農村の生活を維持するための取組や施設整備等、そこで暮らす人々が暮らしやすいようにするための取組など、「この事業に取り組んだから何人の人口増加が見込まれる」等、どの施策をどの程度行えば目標の設定の仕方が正しいのか、中々正解が見出しにくいところである。ただ、そのような状況下でも、

最初に何をするか考えた時、推計の中で少なくとも今後の状況を考えることはできるので、推計よりも実績が下回ることはないようにしっかりと進めていきたいと思うし、地域協議会も含めて地域の皆さんから考えを聞いたり、一緒に取り組んでいきたいと思う。

【西山会長】

- ・意見を求めるが無く、今程の諮問事項について「支障なし」、「支障あり」で委員の皆さんから賛否を伺いたいと思う。

【佐藤委員】

- ・次回の地域協議会で答申を行うとのことだが、今回は資料の活字を追っただけで、じっくり考えたり自分の生活と照らし合わせて検討している時間はなかった。早急に返答を求められても答えにくい。

【西山会長】

- ・次回の地域協議会で答申を行うので、もう一度皆さんの方で内容を振り返っていただきたいと思う。

【井上委員】

- ・一つ確認させていただきたい。「支障なし」というのは、内容全てにおいて良いということなのか。今内容を聞いても、それぞれの内容について様々な思いがあり、方向性として判断するのであれば良いが、内容についてはこの場で自分の思いや考えを話し合う必要があると思う。佐藤委員も同様の考えで発言をされたのではないか。

【自治・地域振興課】

- ・参考までに聞いていただきたい。今回の諮問の目的については、案の中に記載した細かい事業の内容よりも、過疎計画としての方向性について皆さんにお伺いすることにある。事業の細かい点に関しては、これから事業を進めていく中で拡充や修正を図っていく。それぞれの事業に関しては、各事業の関係者から話を聞いて予算の編成や来年度に向けた改善等に取り組んでいくので、区別して考えていただいても支障はない。

【西山会長】

- ・諮問の内容については、次回の地域協議会で答申を行うということによろしいか。
(一同、異論なし)

【西山会長】

- ・諮問事項については終了し、自治・地域振興課の皆さんにはここで退出していただく。
- ・続いての協議事項である(1)自主的審議事項について、事務局に説明を求める。

【藤井班長】

—資料2に基づき説明—

【西山会長】

- ・地域協議会委員の皆さんから各班に分かれて、スポーツ団体のお母さん方からそれぞれ意見を伺ったと思う。それを踏まえ、委員全員から意見を伺いたい。

【飯田副会長】

- ・自主的審議事項検討業務の中で初めて保護者との意見交換会に参加し、どちらかと言えば高齢者の方に目が向けられがちな少子高齢化社会の中、若いお母さん方の話を聞き、人口が多かった頃とは異なり少人数で知恵を出し合っていることを実感した。牧コミュニティプラザは、以前は公民館ということもあり、遊びに行けば誰かしら人がいたが、現在は隣家や隣の集落にも友達がおらず、遊びに行く場合も親の送迎が必要となる等、昔と今では大きく違っていると感じた。しかし、コミュニティプラザに行けば、スポーツ教室をとおして子どもに限らず親同士の交流も図れる。昔と比べ、区外出身のお母さん方が多く、そのような場で話をするにより、ストレスの解消等につながる。私としては、スポーツクラブ3団体の話を聞いて、共通の課題があると思う。それらを踏まえて、保護者の方々ともう少し話を深掘りしながら進めていきたいと考える。

【池田委員】

- ・意見交換会に参加させていただいたスポーツ団体に加え、その他のスポーツ団体の意見を見て、やはり「移動の足」についての意見が印象に残った。子ども同士で遊びに行くのも親に送迎してもらわなければならない。スポーツクラブに通う場合も、昔、子どもが多かった時から親の負担は大きいと承知はしていたが、その傾向が顕著に表れてきたと感じる。「移動の足」の問題に関しては、子どもだけでなく高齢者の方にも通ずると思うので、子育て支援に限らず全体の問題として考える方が解決策が見えてくるのではと感じる。意見交換会では、自分では思いつかないような意見や感想を聞くことができ、新たな発見となった。

【井上委員】

- ・とても良い意見交換会に参加させていただいた。若いお母さん方やお父さん方と話す機会は中々ない。その中で、スポーツ教室のお母さん方が区外から来た人がほとんどであり、私の子どもがお世話になった時とずいぶん違うと感じた。改めて、スポーツ教室のことや清水委員の偉大さがよく分かった。その他にも、この地区に住んでいる人のことや学校での生活、放課後の過ごし方等、様々な話を聞き、ここに生きている私たちの良い問題提起を聞けたと思う。それをスポーツ教室に通う子どもたちに限らず、様々な子育ての問題として考えていくべきことがたくさんあったように思う。子どもの願いや親の気持ち等、一つ一つを大切にしていきながら、皆で知恵を出していく良い機会だと思った。

【小黒委員】

- ・私も牧フレッシュガールズの意見交換会に参加させていただき、皆さんから本当に真剣で前向きな意見を次々と出させていただき、非常に気持ちが和み、楽しく感じた。話の中で「このようにしてほしい」、「あのようしてほしい」と要望することはとても良いことであり、お母さん方もとても一生懸命取り組まれている。その一方、子どもがやりたいと言っても、送り迎えが大変等の理由で親が難色を示す話も多く聞く。その中で、常に送り迎えをしているお母さん方は、地区の中でも意識が高い方々であると改めて実感した。最後に、清水委員にお願いがある。牧フレッシュガールズの話聞いて、指導者である清水委員が先日体調を崩された時、後継者の確保についての意見があった。後継者を育ててもらいたいともお願いしたいと思う。

【折笠委員】

- ・皆さんの話を聞いて、簡単には解決できない問題ばかりだと感じたが、その中でも我々で何とかできそうなものとしては、「売店や移動販売」について、これは切実である。加えて、「移動手段」について、工夫して何とかしてやれないかと感じた。

【坂井委員】

- ・お母さん方からはすごく良い意見が出て、「子どもたちのために運動させてあげたい」、「自分たちで協力したい」気持ちがとても分かった。また、牧区として子育て世代に対し協力的なものがとてもあると感じた。不足している点は意見として多く出たが、牧区としては祖父母や周囲が見守る等、他区にはないような温かさがあると感じた。それを踏まえ、牧区として子育て世代をどう援助していくのが良いのか、子育て世代

を定着させていくためには何が足りないのか悩んだ。子どもの数が減少し、お店がなくなり、購入品等子どもたちが自由に買えるものがない、必要なものが買えない、子ども同士で遊びたくても時間指定のバスに乗らないと家に帰れない等、子どもたちも不便していることをとても実感し、地域協議会としては、今必要なことを意見として出して、牧区に住みたいと思うような事業を提案していかなければならない。牧区全体で盛り上げて、何とか若い世代の人を牧区に定着させたい思いが牧区としてある。牧コミュニティプラザにコインランドリーやカフェを設置する意見がとても良いと感じた。親同士が集まったり子ども同士が交流できる場や、コインランドリーについても洗濯も冬場は乾かないため、とても良い意見が出た。

【佐藤委員】

- ・自分で働いていた頃、子育て支援の関係等に関わってきた中で、割と上越市は子育てに関して保育園に園士を配置したり臨時の方を雇う等して手厚いと思っていたが、ある程度子どもが成長した段階になったり、今回の過疎計画でも話に出た「ジョイカード」で18歳未満の子どもが3人以上いないと使用できないことを考えると、1人でも2人でも子どもが生まれれば祝ってほしい。その人の事情によって産めないこともあるので、1人でも生まれればお祝いし、坂井委員も言われたとおりに見守って、育てていけるようなことを考えていけたら良いと思った。市としての施策、牧区としても様々な活動をしている団体と話す場を設ける等、相互の知識の公開や新しい施設、公園の活用等、工夫できることを考える場となった。

【清水委員】

- ・今回スポーツ団体を対象としたが、最終的には全体を対象とすることを考えている。気になった点としては、子どもたちがやりたくても親が難色を示すことや、児童公園が中々活用できないような状態である。また、スポーツクラブを通じて親同士が楽しめるような意見もあった。それらを踏まえ、今のコミュニティプラザを中心にもう少し子育て世代が集まって、保護者の交流の場を設けていくことができないかと感じた。

【高澤委員】

- ・先日牧剣友会の保護者のお母さん方と意見交換をさせていただいた。他の地域協議会委員やお母さん方の意見を聞いて、私自身子育てが数年前に終わった身だが我々の世代の考えと、状況も異なり子どもの数も減少している今のお母さん方の考えの違いを

実感するとともに、非常に素晴らしい個々の意見に実際に取り組むことができれば、審議して、行政に伝えることができるのではないかと考える。

【横尾委員】

- ・私も、牧剣友会の意見交換会に参加させていただいた。各スポーツ団体の皆さんから一生懸命取り組んでいただき、感謝を申し上げるとともに、子どもが少ない中、スポーツ教室等を通して外の世界に触れることはとても良いことだと思う。各スポーツ団体で出た意見として、子育てジョイカードや送迎手段等、共通の課題も見られた。懸命に意見を言われるお母さん方の表情が今でも印象に残っている。今回出た意見をもとに、自主的審議事項を決めていければと思う。

【西山会長】

- ・話を聞いた中で、お母さん方がスポーツクラブに子どもを連れてくる場合も、結局「移動の足」がないため、様々なものを犠牲にしているのが現状であり、それが負担になっていることを感じた。遠くから来ている子どももいると思うので、お母さんに連れてきてもらわなければ練習にも来れない状況だと思う。この春から引っ越してきた外孫と照らし合わせて話を聞いていたが、外孫は入学したその日から友達ができた。近くにいるということはすぐに打ち解けられる。仲間がいれば自然と交友の輪がひろがっていくのが現実である。また、交通網の問題に関して、現在の体制を否定するわけではないが、もう少しきめ細やかに動く方法はないのか考えている。現在はバスという形だが、乗用車の規模でも良いと思う。和歌山県の山奥で一人暮らしをしている80代の高齢者のために週数回バスで送り迎えしているとのことだった。行政もそこまで取り組めることは良いことだと感じた。交通の体系について何とかして行けたら良いのではと思った。皆さんの意見を伺って、自主的審議事項として何が良いのか、決めていただきたい。

【小黒委員】

- ・せっかくここまで取り組んだので、例え小さくても取り組みに基づいたものを行いたい。そして意見を聞き、他のお母さん方にも情報を発信してもらえれば、より多くの意見が聞ける。

【西山会長】

- ・コインランドリー等、牧コミュニティプラザの要望も意見として多く出た。誰が管理

するか等の管理の問題も出てくるため、何かしら行政と絡まざるを得ないかもしれない。牧コミュニティプラザの活用となると、また「移動の足」の問題が出てくる。

【横尾委員】

- ・次のステップはどうかまで、今日は決めるということで良いか。

【西山会長】

- ・可能であれば、自主的審議事項としておおよその内容までつかめれば良い。

【横尾委員】

- ・他の委員からも意見があったように、内容を絞り込んで、出た意見を1つでも2つでも実現に向かって自主的審議事項の中に盛り込んでいただきたい。それをどうやって絞り込んでいくかの方法についても決めていただきたい。

【西山会長】

- ・体操着や制服、ノートのように、区内で買うことができないとの意見が多く出た。そのあたりから取り組んでみてはどうか。

【小黒委員】

- ・体操着や制服、ノートの問題はあまり難しくなく、一番近いかもしれない。

【西山会長】

- ・個人の商店に頼み込むことも一つの考えだが、それなりの儲けがないと中々難しい。牧区内の店舗で販売しているノートの規格は、学校で使用しているノートの規格と異なるとのことだが、牧区内の店舗への情報提供は行っていないのか。

【小黒委員】

- ・学校で使っているノートの情報を共有できれば、一番良い。子どもたちが実際に使っているノートの規格を牧区内の店舗等に情報提供すれば今後の対応も変わってくる。

【清水委員】

- ・上越市一連なのか、もしくは牧区だけの問題なのかが分からない。

【西山会長】

- ・制服に関しても板倉区まで買いに行かなければならない。

【井上委員】

- ・制服は牧区で販売していないのか。

【西山会長】

- ・牧区で販売していない現状である。

【横尾委員】

- ・学校で使用しているノートは、どのようなものが規格品なのか分からない。

【西山会長】

- ・実際に学校へどのようなノートなのかを聞いて、牧区内の店舗に伝えることもできる。
1つ課題が達成できれば、今後の方向性も変わってくる。

【横尾委員】

- ・西山会長も言われた送迎の問題に関して、プールへ子どもを送っていく時間帯に保護者の時間が合わないため、何か方法があれば良いとの意見があった。また、過疎計画の中でも話に出た「ジョイカード」に関する意見もあった。

【西山会長】

- ・少し話が逸れるが、牧区で開放されているプールは、金額が安く公共のものであるためか、妙高市からも来ている人もいる。そこをもっとPRしても良いと思う。

【小黒委員】

- ・まずは区内の子どもが動ける方法を考えないといけない。

【西山会長】

- ・バスの運行について、振興会とも様々な議論をした。どういう形が良いのか、現状に付け加えることは難しい。加えて委託事業であり、頸城バスに関しては決められた範囲内でしか動かない。子どもは100円で家の前で待っていれば迎えに行く等ができないかと考える。三和区は路線バスを廃止して、振興会が中心になって行っている。

【横尾委員】

- ・今でも行っているのか。

【藤井班長】

- ・三和区は、昨年から行っている。

【横尾委員】

- ・ボランティアで行っているのか。

【高澤委員】

- ・有償である。

【山岸所長】

- ・違いとしては、牧区は東頸バスが、三和区は振興会が区内を回っているという点である。市から補助を受けているが、予約制、運転手の確保等は同様なので、時刻表とは別にバスを自由に動かしたり夜間に運転することはなく、決まりごとに関してすごく融通が利くという訳ではない。

【横尾委員】

- ・それらの情報を踏まえ、どのような手段で決めるのか。例えば、紙に「○」「×」を書いて投票する等が考えられる。それらを集約して、最終的に情報を集める手段を考えた方が良いと思う。

【西山会長】

- ・どのような方法で自主的審議事項のテーマを決めるのか、委員の方から意見はないか。ノートの問題に関しては、私の方で少し調べさせていただきたいと思う。子どもたちの「移動の足」の問題について自主的審議事項とするのはどうか。

【飯田副会長】

- ・西山会長や横尾委員の意見に賛成であるが、今回は各スポーツ団体と意見交換会を行わせていただいた。本日出席された委員から1人ずつ意見を伺った。ひとまず、事務局の方で、協議会の中で出た意見をお返しするのも必要だと思う。その後、話を深堀りする中で共通課題があるとなれば、事務局で整理して、自主審議事項に結び付ける考えの方が良いと思う。それぞれの思いもあり、話し合いの中では12人の意見は中々まとまらない。もう少し時間をかけて進めた方が良いと思う。

【小黒委員】

- ・そんなに焦らなくて良い。

【西山会長】

- ・次回の地域協議会までに地域の実情を確認しておきたいと思う。

【山岸所長】

- ・子育て世代の方々との意見交換会の開催や、課題解決するための話を進めている訳だが、何か解決しようと動きをしている時点で自主的審議もすでに始まっているのではないかと思うところである。

【藤井班長】

- ・形式的で申し訳ないが、次回の地域協議会の中で、自主的審議事項のテーマを案とし

ていくつか示させていただく形でもよろしいか。

【西山会長】

- ・では、事務局の方をお願いする形とする。
- ・続いて、(2)令和3年度地区懇談会について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料3に基づき説明—

【西山会長】

- ・出席に関しては日程表のとおりとし、都合が悪い場合は各自で調整を行っていただきたい。現段階で、特に修正なしということによろしいか。
(一同、異議なし)
- ・その他連絡事項について、事務局に説明を求める。

【藤井班長】

- ・次回の第5回牧区地域協議会は、9月7日火曜日午後6時30分からとなる。後日案内文を送付させていただくので、報告いただければと思う。

【西山会長】

- ・意見を求めるが無く、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-533-5141（内線147）

E-mail：maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。